



## 朝岡 聡(司会) Satoshi Asaoka (Emcee)

フリー アナウンサー／コンサート ソムリエ

横浜市生まれ。慶應義塾大学卒業後、テレビ朝日にアナウンサーとして入社。各種スポーツ中継や「ニュースステーション」初代スポーツキャスターとして活躍。

1995年よりフリーとなつてからはテレビ・ラジオ・CM出演のほか、クラシックやオペラ・コンサートの司会や企画構成にもコンサート・ソムリエとしてフィールドを広げている。ソリストや指揮者と繰り広げるステージ上の会話や、興味深い

内容を軽妙なトークで展開する独自の世界は、新しい芸術ファンのすそ野を広げる司会者として注目と信頼を集めている。

特にオペラに関してはコンサート司会以外にも早稲田大学エクステンションセンター「オペラに行こう」の講座や、サントリーホールオペラアカデミー公演および藤原歌劇団公演でのナビゲーターなどで名場面や有名アリアを生き生きと物語るトークが大好評。バロック・モーツァルト、ベルカントオペラには特別な情熱を持ち、毎年オペラ取材のためヨーロッパの歌劇場に通う愛好家でもある。雑誌掲載の旅企画でオペラをテーマにした現地取材ものも多数。著書「いくぞ! オペラな街」(小学館 2011)は、ミラノ・ウィーン・パリなどを取材し、写真とエッセイでつづったヨーロッパのオペラ旅の魅力満載の本として好評発売中。

## MEMBER'S LIST

### Black Dyke Band

Principal Director of Music Nicholas Childs

Principal Cornet Richard Marshall  
Solo Cornets Kathleen Gaspoz  
Solo Cornets David Smith  
Solo Cornets Sam Lovatt  
Soprano Cornet Benjamin Richeton  
Repiano Lee Rigg  
2<sup>nd</sup> Cornets John O'Brien  
Tim Hammond  
3<sup>rd</sup> Cornets Keith Britcliffe  
Charlotte Groves  
Flugel Horn Zoe Hancock  
Solo Horn Siobhan Bates  
1<sup>st</sup> Horn Helen Varley  
2<sup>nd</sup> Horn Alison Childs  
Solo Baritone Katrina Wheeler  
2<sup>nd</sup> Baritone Ben Wright

Principal Euphonium Gary Curtin  
Euphonium Daniel Thomas  
Solo Trombone Christopher Binns  
2<sup>nd</sup> Trombone Garry Reed  
Bass Trombone Adrian Hirst  
Solo Eb Tuba Harry Cunningham  
Eb Tuba Philip Goodwin  
Solo Bb Tuba Matthew Routley  
Bb Tuba David McGlynn  
Principal Percussionist Adrian Smith  
Percussionist Andrea Price  
Percussionist Matthew Rigg  
Percussionist Paula O'Malley  
Timpani Neil Edwards

Tour Co-ordinator Alison Childs  
Administrator Christine Chalk-Smith  
Chairman of Trustees David Allen

富樫鉄火(音楽ライター)

※文中、ブラック・ダイク・バンドは「BDB」と略しました。

## クイーンズバリー ジェイムズ・ケイ作曲

BDBの創立は1855年だが、正確には、それ以前に「吹奏楽団」だった時期があり、その誕生年は1816年である(つまり今年で誕生200年!)。その地がイングランドのクイーンズヘッド村、現在のウエスト・ヨークシャー州「クイーンズバリー」である。本曲は、そんな生誕地の名を冠したマーチ。コンサートの冒頭で必ず演奏される伝統のBDBテーマ曲である。[約3分]

## 序曲「海賊」 エクトル・ベルリオズ作曲／ジェフリー・ブランド編曲

バイロンの長編詩「海賊」に基づいてベルリオズが作曲した、コンサート用管弦楽序曲が原曲(1844年作曲、初演年不明)。編曲者ブランドは1967~75年の首席指揮者で、その間、何度となくBDBを全英選手権などで優勝に導いている。1968年、ポール・マッカートニーがプロデュースし、アップル・レコードから発売された、BDB版「クイーンズバリー」の指揮・編曲者としても知られている。[約7分]

## ミス・ブルー・ボネット フランク・サイモン作曲／サンデイスミス編曲

[コレット独奏：リチャード・マーシャル]

ソロ・コレットが超絶技巧を披露する名曲(邦題「青い帽子の娘」もあり)。「ブルー・ボネット」とは、アメリカ・テキサス州の州花だが、西部開拓時代に流行した女性用日よけ帽の愛称でもある。作曲家フランク・サイモン(1889~1967)は、アメリカの伝説的コレット奏者。スーザバンドでも活躍した。

本日のソロは、BDBが誇る首席コレット、リチャード・マーシャル。映画「ブラス」のモデルとなったグライム・ソープ・コレリアーバンドに19歳で加入、10年間にわたって首席をつとめた。現在、英ブラスバンド界の頂点に立つ名奏者である。

編曲者サンデイスミスは、元BDBの首席テナー・ホーン。近年はアレンジャーとしても活躍中。[約4分]

## ディー・パー・ハーモニー ヘンデル・パーカー作曲

作曲家ヘンデル・パーカー(1854~1928)は、ヨークシャーの合唱指揮者、オルガニストで、ブラスバンドを指導していた時期もある。本曲は彼が作曲した聖歌の代表曲。通常は、ブラスバンド用の編曲で演奏されることが多いが、BDBは、パーカーのオリジナルスコアをそのまま演奏する。彼らが1920年代からレパートリーにしている、伝統の名曲である。[約3分]

## ビー・マイ・ラブ ニコラス・プロドスキー作曲／レイ・ファー編曲

[バロン独奏：カトリナ・マーゼラ]

ミュージカル映画「ニューオリンズの美女」(米、1950)の中の1曲で、人気歌手マリ・オーランツァが歌った名曲(邦題「ほくの恋人に」)。「オペラ歌手が歌うポップス」としても知られている。編曲は指揮者としても活躍中のレイ・ファー。

本日のソロは首席バロン、カトリナ・マーゼラ。学生時代から数々の選手権でタイトルを獲得し、2011年にBDBに加入。2015年のヨーロッパ選手権では「最優秀ソリスト」賞を受賞している。本業はマンチェスターの弁護士である。

ちなみに「バロン」は、ユーフォニアムに近い音域だが、さらに細い音を出す、サクソソル系楽器(「サクソソル」とは、サクソフォンの発明者アドルフ・サククスが開発した金管楽器群)。いまではブラスバンドや金管バンドでしか使用されないが、昔は、ホルスト(第1組曲)やフローラン・シュミット(ディオニススの祭り)のように、吹奏楽曲で使用する作曲家も多かった。[約3分半]

## 組曲「スターバト・マーテル」より

カール・ジェンキンス作曲／アンドリュウ・ウェインライト & ロバート・チャイルズ編曲

### カントゥス・ラクリモーズス(悲しむべき魔法)

#### パラディーズィ・グロリア(天国の栄光を)

カール・ジェンキンス(1944～)は、ジャンルを超えたユニット「アディエマス」のプロデューサーとして知られるウェールズ出身の作曲家。近年は brass バンドのためのオリジナル曲も発表している。

「スターバト・マーテル」(悲しみの聖母)は、イエスが磔刑となった際の、聖母マリアの哀しみをうたう詩篇で、過去、ベルギー・ジャズヴォルザークなど多くの作曲家が音楽化している。このジェンキンス版は2008年にロイヤル・リヴァプール・フィルによって初演された。原詩のラテン語に、英語・アラビア語などの現代詩も加えた、全12曲の組曲である。ここから、ユーフォニアム奏者で作編曲家のアンドリュウ・ウェインライトと、本日の指揮者ロバート・チャイルズによって、5曲抜粋の brass バンド組曲となっている。

本日は、この brass バンド組曲から冒頭と終曲の2曲が演奏される。宗教・民族・移民問題で苦悩するヨーロッパを慰撫するかのような、いまや英 brass バンド界の重要レパートリーとなっている名曲である。[計約6分]

## シンフォニー・オブ・スカーレット&ゴールド ピーター・グレイム作曲

本日の注目曲である。この曲を、日本で、BDBの生演奏で聴けることに驚きの声をあげた方もいるのではないか。

作曲家ピーター・グレイム(1958～)は、スコットランド出身の作曲家。多くの曲が吹奏楽と brass バンドの両方で演奏され、特に<ハリソンの夢><デイ・オブ・ザ・ドラゴン><ゲールフォース>などは日本の吹奏楽界でも大人気である。

本曲は、昨年7月、BDB創立160周年記念コンサートのために、グレイムが書き下ろした新曲——といっても、旋律は「有名曲」ばかり。実は本曲は、過去にグレイムがBDBのために書いた、あるいはBDBが演奏した楽曲をもとに構成された、壮大なオマージュ・メドレーなのである。

主な登場楽曲を、あげておくと——

**第1楽章<ファンファーレ>**……<サモン・ザ・ドラゴン～ファンファーレとプレリュード><クイーンズパリー>(本日の1曲目)

**第2楽章<レガシー>**……<トーチベアラー～エリック・ボールの主題による交響的変奏>(2009年、全英選手権で優勝した際の課題曲)。

**第3楽章<メディテーション>**……<トライアンフ・オブ・タイム>(2014年ヨーロッパ選手権、2016年全英オープン選手権に出場した際の演奏曲)。

**第4楽章<フィナーレ>**……<地底旅行>(2005年、ヨーロッパ選手権で優勝した際の自由選択課題曲)。

いうまでもないが、これらの「名曲」が、そのまま使用されているわけではない。グレイムはもてる作曲技術のすべてを注ぎ込み、多くを変奏曲風に昇華させている。brass バンドの魅力が120%凝縮して爆発する、壮大なシンフォニーである。[計約15分]

## エンター・ザ・ギャラクシー ポール・ロヴァット=クーパー作曲

2008年の brass インコンサート選手権で、ウェールズの名門コーリーバンドが初演し、200点満点中「199点」をたたき出して会場が興奮の坩堝と化した話題の曲。「宇宙探検」をモチーフにした迫力満点の楽曲である。

ちなみに「brass インコンサート選手権」とは、高度なエンタテインメント性を競い合う人気コンテストだが、BDBは確固たる信念のもと、ガラコンサートには出演するものの、コンテスト部門には参加していない。

作曲家ポール・ロヴァット=クーパー(1976～)は、元BDBのパーカッション奏者。BDB囃話としても話題の曲を次々と提供している、いま brass バンド界でもっとも注目されている、大人気作曲家である。[約3分]

## アントールド・ストーリー ポール・ロヴァット=クーパー作曲

[テナー・ホーン独奏：シボーン・ベイツ]

これも前曲のロヴァット=クーパーが、コーリーバンドのために(正確にいうと、同バンドの人気テナー・ホーン奏者、オーウェン・ファーのために)書いた、美しいバラード。

本日のソロは、「18歳」の天才女性奏者、シボーン・ベイツ。3歳からテナー・ホーンに触れ、上記オーウェン・ファーの指導を受け、フェアリーバンドなどで活躍していたが、この6月、BDBの首席テナー・ホーンに就任し、brass バンド界を驚かせた(これでBDBのホーンは3人も女性となった)。

なお「テナー・ホーン」とは、日本でいう「アルト・ホルン」のこと。サクソホン系の楽器で、ユーフォニアムを一回り小さくしたような形状。温かく柔らかな音色で、brass バンドには欠かせない楽器である。ステージでは、通常、中央最前列に並んでいる。[約4分]

## フリング アンドリア・プライス作曲 [シロフォン独奏：アンドリア・プライス]

吹奏楽に比して brass バンドでは打楽器の数が少なく、通常、ティンパニ以外は3～4名である。しかし、その役割はたいへん大きく、管楽器同様、腕力きでなければつとまらない。

本曲でシロフォン(木琴)・ソロをつとめるアンドリア・プライスは、マンチェスターの名門、チェサムズ音楽院で打楽器と作曲を学び、YBS brass バンドの首席打楽器奏者を経て、BDBに迎えられた。曲も彼女のオリジナルで、アイルランドの伝統的ダンス・チューン「フリング」を、現代的感覚で蘇らせたものである。[約4分]

## ヴィーナスの謝肉祭(イタリア民謡) アレン・ヴィズツェイ、ジョナサン・ベイツ編曲

[ユーフォニアム独奏：ゲイリー・カーティン]

イタリア民謡<ヴェニス of the Carneval>は、あらゆる楽器のために変奏曲が書かれているが、本日の原曲は、アメリカのアレン・ヴィズツェイがトランペット用に編曲した超絶技巧ヴァージョン(その際、タイトルは「ヴェニス」にひっかけて「ヴィーナス」とされた)。それを本日は、元BDBのテナー・ホーン奏者ジョナサン・ベイツが、さらにユーフォニアム用に編曲したスコアで演奏する。トランペット用の曲をユーフォニアムで演奏するとどうなるのか……?

ソロは首席ユーフォニアムのゲイリー・カーティン。アイルランドに生まれ、12歳でバリトンに携わり、のちイギリスで名奏者スティーヴン・ミードにユーフォニアムを学んだ。全英オープン選手権で2度、「ベスト・ユーフォニアム奏者賞」を受賞している。[約8分]

## ボルガの舟歌(ロシア民謡) サンディー・スミス編曲

ここからは3曲メドレーで、ジャズのビッグバンド風の演奏となる。

まずはおなじみロシア民謡から。編曲は、前半で演奏された<ミス・ブルー・ボネット>と同じサンディー・スミス。

## この素晴らしき世界 ポプ・シール & ジョージ・デヴィッド・ワイス作曲／アラン・ファーニー編曲

2曲目は、ルイ・アームストロングの名唱で知られるバラード。ユーフォニアムとバス・トロンボーンのゆったりしたかけ合いが聴きどころ。

### シング・シング・シング ルイ・プリマ作曲／ダン・プライス編曲

最後はベニー・グッドマンがテーマ曲のように演奏していたスウィング・ジャズの名曲。原曲はクラリネットとトランペットのソロが有名だが、BDB版ではトロンボーン・ソロが活躍する。ドラム・ソロや、後半の低音部の強烈な響きなど、芸達者BDBのワザを十分お楽しみあれ。[3曲計約9分]

### ファイアー・イン・ザ・ブラッド ポール・ロヴァット＝クーパー作曲

イギリスにおけるブラスバンドの歴史は、工場や炭鉱などの労働者バンドによって開拓されたが、救世軍バンドの存在も忘れてはいけない(イギリスでは、ブラスバンドといえば救世軍バンドを連想するひとたちも多い)。本曲は、2011年、救世軍インターナショナル・スタッフ・バンドの創設120周年を記念して作曲・初演された。曲名は救世軍のモットー「血と火」(救いときよめ)から。

曲は救世軍の讃美歌集から「Sing for Joy」<Lord, you know that we love you><I love you Lord>が順に登場する、「急～緩～急」の3部構成(中間部ではソロもある)。最後は3曲が絡み合いながら華々しいラストを迎える。作曲は、こなたロヴァット＝クーパー。古風な味わいの讃美歌を、見事に現代風に昇華させている。特に終曲部分を聴くと、ブラスバンド芸術の素晴らしさ、BDBの歴史ある響きに感動しないひとはいないはずだ。[約10分]

・各項目末の「演奏時間」は、CDやDVDの標準タイムを参考にしたもので、本日は大きく変わることがあります。  
・ソロ奏者は変更になることがあります。



**Neo**  
The new standard  
in brass band instruments

YAMAHA  
感動をともに創る

BRITISH-STYLE  
BRASS BAND

壮大なるブラスの世界。今、新時代へとNeoが導く。

●ヤマハ楽器ホームページ <http://jp.yamaha.com/winds/>  
●お問い合わせ【株式会社ヤマハミュージックジャパン 楽器営業本部】  
〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11 TEL.03-5488-1684  
または、【お客様コミュニケーションセンター-管弦打楽器ご相談窓口】  
ナビダイヤル:0570-013-808  
※つながらない場合は053-411-4744へおかけください。  
受付時間:月～金 10:00～17:00(土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く)

管弦打楽器にまつる旬な情報をお届け  
ヤマハ・ウインドストリーム  
facebookにて「いいね!」ボタンのクリックをお願いします。  
<https://www.facebook.com/yamahawindstream>

株式会社ヤマハミュージックジャパン



“ベッソン”進化する伝統。

## Prestige Series



Cornet



Tenor Horn



Baritone



Euphonium

### Prestige Series

楽器名	カタログNo.	本体価格	税込標準価格
B <sup>♭</sup> ・コルネット	BE2028-1-0	¥560,000	¥604,400
	BE2028-2-0	¥580,000	¥626,400
E <sup>♭</sup> ・テナー・ホルン	BE2050-1-0	¥740,000	¥799,200
	BE2050-2-0	¥770,000	¥831,600

楽器名	カタログNo.	本体価格	税込標準価格
B <sup>♭</sup> ・バリトン	BE2056-1-0	¥980,000	¥990,400
	BE2056-2-0	¥920,000	¥993,600
B <sup>♭</sup> ・ユーファニアム	BE2051-2-0	¥1,360,000	¥1,468,800
	BE2052-1-0	¥1,310,000	¥1,414,800
	BE2052-2-0	¥1,360,000	¥1,468,800

(注)※別注は別冊掲載数値です。カタログNo.の1はツーカー仕上げ、2は銀めっき仕上げ。  
※BDB版、演奏者ブックを別注します。 ※上記標準価格は別注品を除く標準的なものです。

### BUFFET CRAMPON

株式会社 ビュッフェ・クラムポン・ジャパン  
〒135-0016 東京都江東区豊洲4-6-17  
TEL.03(5632)5511 FAX.03(5632)5526

©2016年4月31日、社名を変更いたしました。